

原作本「龍鬚溝」における表現についての一考察

片 岡 政 雄

A Study of the Expression in the Original "Lungsy-gou"

Masao KATAOKA

「龍鬚溝」¹⁾は現代中国における作家として、その令名を馳せている老舍の戯曲である。老舍は以前にも種々の戯曲を書いているが、中でもこの「龍鬚溝」が特に世の注目をひく一つの理由は、作者がすでに北京人で、しかもここに在住する細民層を対象とした関係上、大衆の日常話す北京語があまりのまゝに窺えるからである。

テキストには蕉菊隱が演出用に改作したいわゆる演出本の外に、老舍がこれを参考に手を入れた修正本もあるが、今は先ず原作本²⁾の表現を取り上げこれを考究しようとするものである。

さて冒頭の解説に載る十一人の登場者中人物構成上の表現効果より考えて、最も注目をひくのは「程瘋子 (Cheng-Fenz)」である。

「程瘋子：四十多歳。原是相当好的芸人，因受压迫，不能登台，搬到貧民窟来——可還穿着長衫。他有点神神氣氣的，不肯勞力換錢，可常帮忙別人。他会唱，尤以数来宝見長。簡稱瘋子。」³⁾とはその解説である。一体「瘋子」という言葉自体は普通「氣狂」と訳されてはいるが、ここに出ている「瘋子」はかく簡単に言い切れる性格ではない。上記の解説が他の十人に比し一番長くなっているのも、実はこのためで、「他有点神神氣氣的。」——彼は少し変なところがある——と見えるのは、少し世間並みの人と違つた点があるため、いささか輕侮の念をもつて「瘋子」なる名称の奉られたことを説明するものようである。一方、また「可常帮忙別人。」——しかしいつも他人の手伝いをする——という人柄の善さの説明からは、自然愛称の性質さえ帯びていると解される。要するに「瘋子」は愛せられる変り者としてとかく輕侮を招きやすい性格の持主になつて来るが、これこそは作者が表現効果を期する伏線として沈潜の結果、作為した複雑な性格であつて、勿論真の氣狂でもなく、また単なる変人として割り切れるものでもない。それ故作者は、劇の初の方、即ち第一幕の中頃で、最も時代意識に目覚め、龍鬚溝改修に尽力した言わば主役の地位を占める「趙老 (Zhao-lao)」に、そしてこれはまた特に年長者を尊敬する風習を念頭において出したと推測される老人の「趙老」に「瘋子」の性格を改めて説明させる用意を怠らない。趙老のせりふに言う。

1) この戯曲は三幕から構成され、更に第二幕は三場、第三幕は二場に分れて、その内容は北京の天橋の東にある有名な鼻もちならぬ程に臭い溝——「龍鬚溝」の傍に長屋住いする細民層が、政治ボスや町のボスの跳梁にあえぐ生活に始まる。やがて解放時代が訪れこれらのボスも影を潜め、彼等にも明い曙光が射しかける。新政府の第一に取り上げた龍鬚溝の改修計畫に對し、細民達は驚喜の目を見張る一方事の眞偽に迷う者も現れる。しかし改修が實際に行われて

暗渠が完成し、從來の溝が埋められて大道が通ずることとなり、人々の豊かな生活が祝福裏に期待されるというのがこの梗概である。

改修を中心として起伏する事件にからみ、革命下における細民層の自覺にたどり行く心的過程が巧みに描寫されている。

2) 大衆書店 1951年再版本

以下引用本文の頁数の註記はすべてこれによる

3) 1頁

「程瘋子常説：什麼「溝不臭，水又清，国泰民安享太平。」他說得对，他不瘋！有了清官，才能有清水．．．．」¹⁾

これは程瘋子のいつも口にしてゐる「溝不臭，水又清，国泰民安享太平。」——どぶ臭わず，水また澄めば，国は泰く民安らかに太平が楽しまれる。——という言葉肯定して，「他不瘋！」——あいつは氣狂じやない。——と，瘋子のため一言力強くその性格を弁じた箇所である。しかも「有了清官，才能有清水」——正しい役人が現れさえすれば，それで水も澄むんだ，——などと言いつける「趙老」の語氣は瘋子に対する深い信頼感をたたえ，ひいてはその佯狂的性格を暗示するものようである。と言うのは變動時代の处世法として，中国の歴史に幾多の事例を見出し得る程に珍しくない傾向だからである。ところで趙老のこの断言は，「瘋子」の性格に新たな認識を興えただけでなく，これに関連して，表現効果の上に期した前述の伏線をはつきり浮ばせる基因ともなつてゐる。ところで再び「程瘋子」の日頃口にするという前記の言葉を検討するに，確かに「龍鬚溝」の主題を端的に衝いて余すところがない。もし趙老が「他不瘋！」と断しなければ，主題が看過され切角の焦点もぼけてしまう恐れが多分にあるので，しかとこれを予防せんとする趣旨であることは明瞭である。しかし氣狂ではないにしても，解説の性格はすでに第一印象として容易に消え去るべき筋のものではない故，その言葉も聞手にはそのままには入らず，表現効果の面から独特の作用を發揮するわけである。作者はこれに目をつけて，彼のせりふや歌に再三再四主題を盛り劇の進展をはかつてゐる。

「娘子差矣！（数来宝）想当初，在戲園，唱玩芸，挣洋錢，歛歛喜喜天天像過年！受欺負，丢了錢，臭鞋臭襪臭溝臭水臭人臭地熏得我七竅冒黑烟！」²⁾

「我這裏，沒毛病，臭溝熏得我不愛動。」³⁾

「有一天，溝不臭，水又清，国泰民安享太平。」⁴⁾

いずれも解放前における彼の言葉で，大衆には臭い溝が清らかに流れることの切なる念願として自然共感をよび，為政者には耳痛い諷刺や皮肉の語調を帯びてゐるにもかかわらず，彼の性格上責むるにはなお余地を残し，角立たずに響く特徴を備えて妙である。

また解放後の彼の唱歌に次の例がある。

「站住！我想起来啦！我一定到民教館去唱，唱“修龍鬚溝”！聽着：（唱）給諸位，道大喜，人民政府了不起！了不起！修臭溝，不髒不臭，清水流，從比後，溝水清，国泰民安享太平！」⁵⁾

傍線部分が歌であるが，——皆さん，おめでとう。人民政府はすばらしい。すばらしいことだ。臭い溝はかたづけ，きれいに臭みがとれて，澄んだ水が流れる。これから後，溝は澄み，国は泰く民安らかに太平が楽しまれよう。——と例の主題が再び出ている。もし性格上何の制約もないまともな人間，殊に積極分子がこれを唱うとすれば，その頌徳的内容が余りにも強く打出され，表現効果の面からは却つてマイナスになる恐れがあろう。しかし「瘋子」に唱わせる限りともかく変り者という第一印象にリードされ，主義の如何にかゝりなく誰しも一個の人間として同情裡に納得されるであらう。

要するに「瘋子」を出した趣向は，先ず社会の緩衝的媒介の性質を帯びさせ，しかる後あらゆる階層を対象として，厳しい革命精神をスムーズに滲透させるべく期したものと解せられる。

勿論こうした期待は，何も人物の醸す特質にのみ掛けられたものではなく，歌そのものにも掛け

1) 10頁

2) 8頁。

3) 3頁。

4) 4頁。

5) 43頁。喜(xi)と起(ki)が紙韻，溝(gou)と流(liu)が尤韻，清(c, ing)と平(Ping)が庚韻である。

られている。ついでには前述の歌であるが、これは龍鬚溝の測量隊がいよいよ到着したとの情報を得、期せずして人々と秧歌 (iangge) の踊りに興ずる余勢に乗り、晴の舞台「民教館」で歌うんだと一気に自慢の程を見せただけに、極めて整然たる形式を備え、この意味では最も代表的な歌になっている。即ち歌は三節から成り、各節は三字・三字・七字の句でその第二・三句末には押韻があり、形式上から古い伝統を継ぐ親しさが籠っている。例を唐代の名家にとれば、李白の「白紵辞」¹⁾・「鳴雁行」²⁾ 杜甫の「兵車行」³⁾ 白居易の「七德舞」⁴⁾ の歌い出しは、いずれもこれである。更に遡っては宋の鮑照の「白紵辞」⁵⁾ もこれであり、北朝時代の作として有名な「勅勒歌」⁶⁾ も韻の配置に少しく異同はあるが同じ句形をなしている。その他漢の無名氏の作「淮南王篇」⁷⁾ 「戦城南」魏の曹操作「陌上桑」「艶歌何嘗行」、曹植作「平陵東」「当来日大難」等より多くの例が挙げられる。

一方内容的に取り上げると、その

「了不起，修臭溝，不髒不臭清水流，從此後，溝水清，国泰民安享太平！」

という言い廻しには、遙かに遠い古代への連想が伴う。即ち夏の禹王の治水工事もその一つであろう。更にこれは大衆の踊り秧歌にすべての憂さを忘れる如く興ずる一時をとらえて、これまた大衆の歌である数来宝 (Shulaibao) の曲に託して唱われるのであるから、識らず知らず古の「撃壤歌」から太平の民への憧憬をさえ誘い出す。

以上のようなわけで、老舎は革命の是認を意図した主題の表現を、一般民衆の日常耳に親んでいる歌曲を通して、そしてそれは古い伝統を継ぐ形式に基づく歌曲であることを通して、又内容的には中国人の心に自ずとあるノスタルジヤを通して、社会のあらゆる層に何の抵抗も感ぜず、自然に受け入れられるようにしたと考える。

さてこの種の歌は皆「瘋子」の自作に帰しているようであるが、彼がかかる歌作りの出来る理由については、既に掲げた冒頭の解説に「原是相当好的艺人。」——彼は元来相当によい芸人だ。——と述べているだけで頗る簡単である。もしこれ以外考慮することがなかつたら、切角の歌と人とが遊離してしまう。そこで作者は「瘋子」のせりふの表現に対し、殊に細心の注意を払つたようである。

「丁四嫂，倆很忙 (mang)，伺候病人我在行 (xang)。(跑到趙的窗外) 趙大爺，您好点吧？」⁸⁾

「(攙趙出来) 我弄水去！(扶趙坐) 不要說，我無能 (neng)，沏茶灌水我也行 (xing) 幫助人，真体面 (mian)，甚麼活兒我都幹 (gan)。」⁹⁾

両者とも皆「瘋子」のせりふの一例であるが、傍線の部分は彼の歌形式と同一であることが目立

1) 揚清歌。發皓齒。北方佳人東隣子。(李太白全集卷四) 齒 (CH) と子 (z) が紙韻である。

2) 胡雁鳴。辭燕山。昨發委羽朝度關。(李太白全集卷四) 山 (shan) と關 (guan) が刪韻である。

3) 車麟麟。馬蕭蕭。行人弓箭各在腰。(杜詩詳註卷二) 蕭 (siao) と腰 (iao) が蕭韻である。

東京大學倉石先生の演習「龍鬚溝」に内地研究員として参加した際、こうした形式は「兵車行」や漢魏六朝の樂府にも見られる旨の解説があつた。

4) 七德舞。七德歌。傳自武德至元和。(唐詩別裁集卷八) 歌 (ge) と和 (xe) が歌韻である。

5) 朱唇動。素袖舉。洛陽少童邯鄲女。(鮑氏集卷三) 舉 (gy) と女 (ny) が語韻である。

6) 勅勒川。陰山下。天似穹廬。籠蓋四野。」天蒼蒼。野茫茫。風吹草低見牛羊。

(古詩源卷十四) 前半は下 (xia) と野 (ie) が馬韻で、下半は蒼 (cang) 芒 (mang) と羊 (iang) が陽韻である。

7) 「淮南王」篇以下の六篇はすべて八代詩選卷十五に據つたものである。解説はこれを省く。

8) 5頁。ラテン化新文字が押韻の箇所である。

9) 5頁。同上

つ。或はこれを正式に唱つたものであると見做すかも知れないが、その場合には普通地の文に「唱」或は「数来宝」と示するのが例であるから、ここは唱う気分で軽口をたたく調子に言うものであろう。

「(放下小罐, 慢慢走過去) 叫我来 (lai), 我就来 (lai), 哥倆有話說明白 (bai).」¹⁾

これはボスの手下「馮狗子 (Feng-Gouz)」に呼びつけられて、打たれんとするときの「瘋子」のせりふ。前述の歌形式に似ているが押韻が違う。

「誰? 啊, 是倆! 又来打我? 打吧! 我不跑 (pao), 也不躲 (duo)! 我可也不怕倆! 倆打, 我不還手, 心裏記着倆; 這就叫結仇! 仇結大了, 打人的会有吃虧的那一天! 打吧!」²⁾

時勢変つて解放後再び現れた「馮狗子」に「おれを打て!」と出た「瘋子」のせりふ。緊迫の際においても歌形式に似た三字句の重りをもつ言葉が発せられる。「瘋子」のせりふには、この外にも三字句の重りに始まる数多くの例を挙げられるに対し、他の登場者は遙かに少く、前述の歌形式をとるものに至つては全く見当らない。

このことは前にも述べた通り「瘋子」が相当の芸人で、常に歌句調の物言いすることを示し、暗に歌との円滑なる連関を計つたに外ならない。しかし甚だ逆説的ではあるが、この頻繁に示される特徴は却つて不自然にも見える。劇も後半に入ると、三字句の重りが彼には前ほど多くは現れないのに比し、他の登場者に漸く上昇の傾向を示すのは、作者もかかる認識に立つたことを物語つていようである。

さて、「瘋子」は作者からかゝる歌作の技倆を与えられたが、それではこれがどの程度に發揮されているだろうか。

「(進來, 還唱) 沏茶喝, 甜又香, 不像先前沏出茶来稠唧唧的像麵湯. 洗衣裳, 跟洗臉, 滑滑溜溜又省胰子又省鹹. 快来買, 快来挑, 嘗了這甜水高不高. 好甜水, 嘩嘩的流, 一流流到了龍鬚溝. 龍鬚溝, 有了甜水, 乾乾淨淨, 清清凉凉, 倆說這够多麼美!」³⁾

これは龍鬚溝に暗渠が完成し、新に水道も引かれ、長屋住いの人々が限りない喜びに浸つて完成祝に出ようとした時、「瘋子」が水道見張りの余暇を得て、趙老に会うべく得意気に唱つて見えたものである。劇も既に完結に近づいているので、彼に全才能を傾けさせたにふさわしく、押韻法にも変りをもたせ、修辭的には多種多様を極めて五節にも及び、全篇中最も長い華麗な歌になつている。「稠唧唧的(chou dudud)」、「滑滑溜溜(xuaxua-liuliu)」、「乾乾淨淨(gangan-zingzing)」、「清清凉凉(cingcing-liangliang)」などは同一文字を重ねたいわゆる重言で、第三節を除き各節に使用されている。しかし第三節ではこれを補うかのように「快来買, 快来挑, (kuai lai maai, kuai lai tiao)」と句頭に同じ二字を重ね対句的の句調をもたせている。これとやや趣を異にしては、第二節第三句内にも「又省胰子又省鹹。(iu sheng iz, iu sheng xian.)」と同じ二字を重ねている。また第四節の第二・三句にかけて「嘩嘩的流, 一流流到龍鬚溝。(xuaxuad liu i liu liu dao le Lungxy-gou.)」と「流」を三たびも出し、流音のもつ滑りよい特徴を利用し、一方最後の「龍鬚溝」を第五節の冒頭に冠して連鎖的に高調の気分へ上昇させるべく計つている。これらの字の重りは言うまでもなく音調の快美を狙つたもので、それ故ここでは少しの渋滞も見せない。ただ「修正本」⁴⁾では、最初の二節を記すのみで以下を省略し、別にフィナレとして原作本に見えない十節

1) 19頁。同上

2) 37頁。同上

3) 71頁。香(xiang)と湯(tang)が陽韻、臉(lian)が琰韻、鹹(xian)が賺韻で兩者通韻となる。挑(tiao)が蕭韻、高(gao)が豪韻で同じく通韻である。流

(liu)と溝(gou)が尤韻、水(sui)と美(mei)が紙韻である。

4) 1952年・晨光出版公司本
1953年・人民文學社本

にも及ぶ長歌を唱う仕組になっているが、これは唱う場の重点を変えた措置に違いない。とにかく、ここにかゝる歌があることは、歌における修辭的表現効果につき作者が如何に重要視したかを物語るものとして興味がひかれる。

しかし、かゝる修辭的關心はひとり歌にのみ向けられているものではない。従つて細かに観れば、せりふの随処に指摘出来る。勿論中国語の特質にも基づくもので今更事新しく取り上げなくてもよさそうであるが、問題は頻用の箇所である。

（娘子由外面匆匆走来。）
 二春 娘子，看見二嘎子沒有？
 娘子 怎能沒看見？他給我看攤子呢！
 二春 給……。這可倒好！我犄吱兒沓都找到了，臨完……。不知道他得上學嗎？
 娘子 他没告訴我呀！
 二春 這孩子！
 大媽 他荒裏荒唐的，看攤兒行嗎？
 娘子 現在，三歲的娃娃也行！該亮多少錢，亮多少錢，言無二箇。小偷兒什麼的，差不離快斷了根！（低声）聽說，官面上正加緊兒捉拿黑旋風。一拿住他，曉市上就全天下太平了，他不是土匪頭子嗎？哼，等拿到他，跟那個馮狗子，我要去報報仇！能打就打，能罵就罵，至不濟也要對準了他們的臉，啐幾口，呸

！呸！呸！，偷我的東西，還打了我的爺們！狗雜宗們！我說，我的那口子在家哪？
 二春 在家嗎？一声沒出啊。
 娘子 這幾天，他又神神氣氣的，不知道又犯了什麼毛病！這個傢伙，真教我不放心！（程瘋子慢慢的由屋中出來。）
 二春 瘋哥，僂在家哪？
 瘋子 有道是，在家千日好，出外一時難！
 娘子 又是瘋話！我問僂，僂這兩天又怎麼啦？
 瘋子 沒怎麼！
 娘子 不能！僂給我說！
 瘋子 說就說，別瞪眼！我就怕吵架！我呀，有了任務！
 二春 瘋哥，給僂道喜！告訴我們，什麼任務？

これは第二幕第三場の初りであるが、「娘子」(Niangz)のせりふに「天下太平」と彼等の最關心事が出ている通り、今や町のボスも昔日の面影を失い、大衆が解放の喜びを懐いて大いなる希望に湧く心裡をつかまえた高調への序奏的描写である。

先ず地の文「匆匆(cungcung)」・「慢慢的(manmand)」も場の気分を誘うに役立つ重言として注目されるが、こうした修辭的配慮は、各登場者にも相当頻繁にあらわれている。例えば「娃娃(wawa)」・「神神氣氣的(shenshen-kikid)」等の重言、「能打就打，能罵就罵，」・「在家千日好，出外一時難！」等の対句、「我說，我的那口子在家哪？」「在家嗎？」・「我問僂，僂這兩天又怎麼啦？」「沒怎麼！」・「僂給我說！」「說就說，別瞪眼！」等問答の連鎖的言い廻しなどがこれである。後者の例とよく似ているが、初の「二春」(Rchun)と「娘子」の間答に交わされる「看見二嘎子沒有」に対する「怎能沒看見？」、すぐ続いて「他給我看攤子呢！」に対する「給……。」という風に相手の言葉の一部を中から捉える問答の微妙な気合にこもる語調も見逃がされない。最後の「二春」の言葉に四字句が三句連続して甚だ変った形であるがこれも「瘋子」の四字句の語調を受けたものであり、更に中の言葉をとって「甚麼任務？」と言いつつ放つた気合は、「瘋子」の調子に比べて遙かに急切で、喜びにはずむ気分がありありと浮ぶ描写である。なお「二春」の言う「犄吱兒沓(gizh-laga)」，「大媽」(Dama)の言う「荒裏荒唐的(xuangli-xuangtangd)」の「兒沓」や「荒唐」は語尾韻を同じくする疊韻であり、それ自体既に語調的快美感を伴っている

が、その上に冠する二字は更にその気分を深めている。

別にまた一例を第一幕の終にとる。

「(看看天, 天已陰。) 唉! (慢慢跪下去。) 老天爺, 可憐可憐窮人, 別再下雨吧! 屋子裏, 院子裏, 全是湿的, 全是髒水, 教我往哪兒藏, 哪兒躲呢! 有雷, 去霹那些惡霸; 有雨, 往田裏下; 別折麼我們這兒的窮人了吧! (隱隱有雷声。)」¹⁾

これは雨模様の空を見上げ出水の被害とボスの跳梁に戦く四嫂 (Ssao) が助けを求めて祈るせりふで、要するにその敬虔と切実の織りなす言葉が解放前のことどもの総括をなして印象的に幕が下りるのである。このせりふにも前例と同じく重言や対句、はては押韻などの手法が目立っている。

以上の二例はもとより高調的的印象的場面として特徴づけられるが、かかる際のせりふは特に聴者の耳に調子よくはつきり響かせなければ効果が上らないわけで、そこで極力修辭的技巧を集中させたと解せられる。このことは可なり重要な意義をもち「瘋子」の歌に対する均衡上、恰も無韻の詩のような地位を与えたと観るが至当であろう。

ところで、これまでは口語の表現を主体とし、時に文語的表現があつてもこれには触れず主旨を通した。次に文語的表現の数例をあげる。

(龍鬚溝. 這是北京天橋東的一條有名的臭溝. 溝裏全是紅紅綠綠的稠泥漿, 臭如腐鼠。)²⁾

(劉巡長: 四十來歲. 能說會道, 善於數衍. 簡稱巡長。)³⁾

二春 (往回跑) 我找朵子去. (入屋中)⁴⁾

四嫗 (向屋內) 瘋大爺, 您要点什麼呀?⁵⁾

瘋子 我来攪您! (入屋)⁶⁾

二春 (提水, 出来) 媽, 水就剩了一点啦! (置壺於炉上)⁷⁾

四嫂 大公母 (即大約), 一家得出多小錢呢?⁸⁾

傍線の箇所はそれであるが、いずれも皆地の文であつて隨所に指摘され珍しい例とは言えない。恐らく簡潔に事態の要点を述べて、せりふの本筋に表現の力点を置く關係上なされた中国人の習慣的用法と解すべきであらう。しかしこの文語的句調がせりふの中に現れるとなれば、それだけに別な理由があると考えられ、もう少し慎重を期せねばならぬ。

「四嫂言之有理! 那麼, 大媽, 四嫂, 娘子, 我就失陪, 服務去了!」(下)⁹⁾

これは「瘋子」のせりふである。「四嫂言之有理」が文語句調であり、後を受ける言葉は二音節の重りで、最後に四字句を二つ重ねて結ぶ。この形態は明かに文語のもつ莊重を受けてよく釣合がとれている。しかし作者の狙う真意はそれにあるのではなく、逆に「瘋子」の愛すべき性格から来る稚氣を利用し、ここに一先ずしかつめらしい諧謔味を帯びさせるための措置に外ならないと考える。なお一つ先にも示した「瘋子」のせりふから例を引く。

「娘子差矣! (數來宝) 相当初, 在戲園, 唱玩芸, 挣洋錢, 欲歡喜喜天天像過年!」¹⁰⁾

「娘子差矣!」と文語助詞「矣」が用いられているのは、前と同じ意味の諧謔味を帯びさせたもので、下に韻文を続けたのは結果的に文語との調和がとれ面白い対照をなしている。しかしこうした文語句調は地の文ほどにしばしば現れる現象ではない。それにしてもかような例を見出し得るの

1) 23頁, 霸 (ba) と下 (xia) が陽韻である。

6) 5頁。

2) 1頁

7) 5頁

3) 2頁

8) 15頁。

4) 5頁

9) 72頁。

5) 5頁。

10) 3頁。

勿論これだけでは、その修辭的表現と大衆の日常語とのつながりの関係を意義づけることが、困は、話言葉に入る文語句調の不自然性を認識しながらも、逆にその持味を特種な意味をもって生かそうとする作者の意図であることが分る。

以上大体ではあるが一方には劇の構成人物上から、一方には歌・せりふ、或は地の文から表現上特に目立つ諸点を力説したわけである。

中でも特に注目を惹くのはその修辭的技巧である。こうした傾向は大衆の日常語に実際のつながりを持つものであろうか。もしそのつながりが無くして使用するものであるならば、旧文学者とその精神において少しの違いもないと言わねばならぬ。ここで作者の大衆の日常語に対する態度をもう少し掘下げる必要がある。

「慚啊，以前，前門裏頭的新事綫鬧不到咱們龍鬚溝來。城裏頭什麼自由婚，還是葱油婚哪，鬧唄；咱們龍鬚溝，別看地方又髒又臭，還是明媒正娶，不亂七八糟！」¹⁾

これは大媽のせりふであるが「鬧唄」——騒がしておけ——と他には見慣れない語氣詞が用いられている。「唄」は得意の感情を現す語氣詞であるとは以下の一部とともに倉石先生の演習に於て知り得たが、これらこそはこの階級の日常語の忠実な描写だろうと判断する。

「……這傢伙，照現在這樣，他登上車，日崩西直門了，日崩南苑了，他滿天飛，我上哪兒找他去？……」²⁾

「也不太苦，二性子！」³⁾

「我給他倒去。（去倒水）哼，還沒到晌午，怎麼就喝貓呢尿呢」⁴⁾

「這太棒了！想想看，沒了臭水，沒了臭味，沒了蒼蠅，沒了蚊子，嘔，太棒了！……」⁵⁾

前の一例は「四嫂」，中の二例は「大媽」，最後は「二春」のせりふで、特異な言葉として目立つのは傍線の部分である。「日崩 (rhbengr)」の「日」は音の形容、「崩」は飛んで行く意味を現す言葉である。「二性子」は苦くも甘くもない性質を具えた水、「貓尿」は猫の小便の意で酒に対する悪口、「太棒了」はすばらしいの意味である。

その他罵りの言葉がしばしば使われ、中にはちよつと憚られるようなものもあるが、それらは既に原義の深刻さを失つて、この階層には輕蔑的な感情をむきだしに言う手段として用いられているらしい。

「他媽的，那些錢又教他們給吃了，丫頭養的！」⁶⁾

「不是倆？是他媽的畜生？」⁷⁾

「（狂笑）衛生捐？衛生——捐！（再狂笑）丁四，哪兒是咱們的衛生呀！劉巡長，誰出這樣的主意，我禽他的八輩祖宗！（入室）」⁸⁾

「我宰了這個王八旦！」⁹⁾

初の二例は四嫂，後の二例は趙老のせりふで傍線の部分が罵りの言葉である。

彼此考え合せると、作者は殊更に現実から離れて言葉を飾る心の持主ではなく、むしろ赤裸々に大衆の日常語を用いて場に即応した適切清新な表現を創始しようとする意図がありありと看取される。

1) 44—45頁

2) 31頁。

3) 10頁。

4) 46頁。

5) 42頁。

6) 10頁。

7) 38頁。

8) 14頁。

9) 20頁。

難で、事は更に吟味を要する。

大媽 別那麼說。俗語說得好：不乾不淨，吃了沒病！我在這兒住了幾十年，還沒敢抱怨一回！¹⁾

狗子 我？先禮後兵，我給倆送棺材本兒來了。．．．．²⁾

瘋子 有道是，在家千日好，出外一時難！³⁾

これらの傍線を施した部分は譬喩的格言的成句である。この種の成句は人間が社会生活の歴史的体験の集積として得られただけあつて、簡潔に事物の実相をうがち、教育を受けない一般大衆には特に無二の指針としてその生活態度を支配する力さえもつている。ここもその片鱗を見せたものと解せられるが要するに歴史的体験の集積であるから、中には文語句調もあり、且つ人々の口に発し易いようにするためには、修辭的配慮さえも伴っているわけである。従つて大衆には、多かれ少かれこうした言い廻しが一応は身につけているわけである。老舍はこれに着目して大衆の耳に受け入れられる程度に修辭的技巧を活用し、表現上にパライテイーと幅をももたせて、あらゆる階層の好尚に堪え得られるようにしたと解せられるが、ここに旧文学者と一線を劃する根本的相違があると思う。

最後に読後の感想から標題の結びに導く。この劇は革命という政治的背景のもとに、虐げられた細民の自我意識を対象とする關係上、鬭争意識・新政府謳歌などの描写が際立っているにかかわらず、きざなわざとらしさや深刻な暗さの後味が殆んど残らないのは不思議な位である。元來細民層は上流階層や知識層とは異り、人間としてのぎりぎりの線で生活している關係上、虚飾がなく、その生活感情は旧中国のもつ素朴の善意を失っていない。それ故にこそ細民層に陥っているわけでもある。老舍はこの階層に普遍的に温存する民族の善意に触れ、これを新しい時代に適應させようとした。それに修辭的技巧が微妙に作用し、深刻な鬭争精神もむきだしには投影せず、素朴とか善意とかが全体をほのかに包んで、結果的にはただ生きぬく人間としての逞しさにひとしお温る明るさを与える作品となつている。

感覚の鋭い人にとつては、或いは対象に対する突込みが甘く、表現効果上力がないようにも思われようが、この点却つてあらゆる階層に対し、作者の意図するところに食わず嫌いの無理解を起させないようにもなつているわけで、特に味うべき表現方法だと思考する。

備考 本稿は文部省科學研究助成金による研究成果の一部で、第三回東北中國學會においても要旨を發表した。

1) 7頁。淨(zhǐng)と病(bìng)は敬韻で韻を踏んでいる。

2) 26頁。對語である。

3) 34頁。對句である。